



今回は対人援助職を目指す社会福祉学部、看護栄養学部の学生をご紹介します



看護栄養学部 看護学科 4年

山口県立下関西高等学校 普通科卒業

大学進学を決めたのは高校2年生の時。本学に決めたのは山口県内で看護師国家試験受験資格と養護教諭一種免許状の両方が取得できる公立大学だったから。課題が多くて大変なこともあるが、毎日充実していて楽しいと話す。就職も決まり、今一番頑張っていることは看護学臨地実習と卒業研究。国家試験対策も計画的に取り組んでいる。

県大の看護学科は少人数教育で、先生や先輩との距離が近い

優しく温かい先生が多く、1人1人が丁寧な手厚い指導を受けられます。文系から看護学科に進学して、授業について行けるか心配でしたが、基礎から応用までしっかりと学べる授業があるし、先生も配慮してくださるので、文系の私でもわかりやすかったです。授業はグループワークが多く、栄養学科との合同授業もあります。それぞれ専門の視点から考えを共有することで視野が広がり、他者理解を深めることに繋がっています。

養護教諭一種免許状を取得予定。ボランティア活動にも取り組む

大学の近隣の小学校や高等学校でボランティアを行いました。小学校では健康診断のお手伝いをしながら、それぞれの発達段階に合わせた声掛けやコミュニケーション方法を学ぶことができました。また、高校でのボランティア活動では、保健に関する掲示物の作成や生徒と直接話すことで、保健室運営や生徒理解を深めることができました。

看護学科での学びは大変。だけど、実はとても楽しい！

看護学科は大変と言われていて不安も多いと思いますが、実際はとても楽しく充実しています。確かにレポート課題や試験は多いですが、先輩から試験対策のアドバイスがもらえたり、友達と一緒に取り組めるので大丈夫です。受験勉強は辛くて、なかなか結果に繋がらず落ち込むこともあると思いますが、頑張っていることは決して無駄ではないので自信を持って頑張ってください。応援しています！



社会福祉学部 社会福祉学科 4年

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 普通科卒業

父の知り合いの方に県大を紹介してもらった。調べたところ国家試験の合格率の高さや、興味のある講義をされている先生がいることを知って本学をめざすようになった。将来は誰かの笑顔のために、そして誰かの笑顔を感じられる環境で働きたいと思っている。

大学に入ってよかったと思うことは「人との出会い」

大学でたくさんの友人や先輩、先生、職員の方々に出会えました。大学祭の実行委員やサークル連合会記念式典の実行委員など、様々なことに挑戦してきましたが、たくさんの友人に支えられ、応援してもらいました。これまで挑戦してきたことは、どんなに頑張っても一人では絶対に成し遂げられないものばかりだったので、本当にたくさんの人に恵まれたな、と思います。

県大は誰かに相談できる環境が整っている

山口県立大学はとてもきれいで先生方も優しくとてもオススメです。心配なことがあってもすぐ誰かに相談できる環境も整っています。自分が県大で学んでいる姿を想像しながら受験頑張ってくださいね！



看護栄養学部 栄養学科 3年

山口県立柳井高等学校 普通科卒業

山口県立大学に進学を決めたのは小学校中学年。きっかけは学校給食。幼少期は偏食、小食だったが、給食の影響で食べ物に興味を持ち、好き嫌いがなくなり、量も食べるようになった。食べ物に関わる職に就きたいと考え、管理栄養士という資格を見つけた。

課外活動で山口県産の食材活用し、商品開発も行う

課外活動「やまぐち食べちゃる隊」に取り組んでいます。山口県の食料自給率向上のために山口県の食材を使い、商品開発などを行っています。企業と協力しながら自分たちで商品のアイデアを出し合い、実際に調理や販売も行っています。4月から隊長をしています。"ちゃる隊"のみんながワクワクしながら活動している様子を見てとても嬉しく感じています。

栄養や食に関わる授業は想像以上に幅広く、深く学べる

食べ物が好き！食や栄養に興味がある！という方には本学の栄養学科を全力でおすすめします。栄養や食に関わる大学での授業は想像以上に幅広く、深く学ぶことができます。また課外活動や実習、実験、研究など大学生だからこそできる経験がここには多くあると実感しています。ぜひみなさんにも充実した大学生活を送って様々な経験をしてほしいです。

高校時代のボランティア活動から食育活動に興味をもった

高校時代、子ども食堂のボランティアスタッフとして活動した際、子ども達の食の現状を目の当たりにし、大学生になったら食育をしたいと思うようになりました。本学の栄養学科は「食育プログラム開発チーム食育戦隊ゴハンジャー」の課外活動に力を入れており、本学受験の決め手の一つになりました。

推薦選抜と一般選抜のバランスを考慮して勉強した

受験対策として、ディスカッションは週に2回、社会福祉学科を受験する友達と一緒に練習していました。ディスカッションや面接で自分の考えがきちんと伝えられるよう、必要な知識の習得や情報収集にも力を入れ、休日には図書館に行き、様々な本を読みました。さらに、新聞で興味のある記事をまとめたノートを作り、他大学の栄養学科を受験する友達と情報の共有もしていました。1限目の授業の2時間前に登校し、朝の時間と放課後を推薦対策の時間として、それ以外の日中の時間は共通テストの勉強をしてバランスをとっていました。

切磋琢磨しあえる仲間との出会い

本学に入って良かったのは、切磋琢磨しあえる仲間に出会えたことです。栄養学科は一学年約40人の小規模な学科です。そのため、授業で分からないことを教え合い、テスト勉強などもみんなで頑張れる雰囲気があります。同級生、先輩、後輩、先生方、県大には素敵な方が多いと思います！



看護栄養学部 栄養学科 4年

山口県立山口中央高等学校 普通科卒業

今、頑張っていることは「食育戦隊ゴハンジャー」の活動。子ども達が実際に体験できるよう工夫した教材を用いて、保育園・幼稚園、小学校、児童センター、スーパーマーケット等で楽しみながら食について学べる活動を行っている。



看護栄養学部 看護学科 4年

山口県立防府高等学校 普通科卒業

推薦入試も受験したため、国語と担任の先生にご指導をいただき志望理由書を完成させた。また、面接や小論文対策として、時事的な内容の情報収集（新聞を切り抜き、通学の電車内では毎日ニュースアプリを見る）に力を入れたり、興味のある分野の本を読んだりしたとのこと。

少人数で学ぶ良さを感じながら保健師を目指す

住民の健康や笑顔のために地域に貢献できる保健師を目指しています。大学3年次から公衆衛生看護コースを選択しました。看護師の学習に並行し取り組むため、忙しさは2倍です。しかし、15名のコースの仲間と支え合いながら、優しく温かい先生の手厚い指導のもとで、ここまで頑張ることができました。経験豊富な先生方の話には、いつも心が動かされます。

学外活動で「地域が自分自身を成長させてくれる」ことを実感

大学入学後は、「やまぐち地域医療セミナー」と「やまぐち健康応援学生サポーター」の学外活動に参加しました。「地域医療セミナー」では、実行委員を務め、他大学学生とともに、巡回診療所の見学、地域活動を通じて健康について話を伺う、オンライン診療模擬体験などを行い、学びの共有と医療を含めた地域全体の課題を議論、検討、発表する全体報告会の企画運営を行いました。「学生サポーター」活動では、主に体組成測定や立ち上がりテスト（ロコモ度チェック）の補助として、行政の健康づくり事業に参加しました。この活動を通して、地域で暮らす方の多様な人生観や暮らしに触れ、言葉に表せない気持ちに思いを馳せることができようになりました。また、行政や他大学の方々と接し、協調性を大切にしつつ自分の思いを伝える力を養うことができたと思います。

「子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所」で活動

ゼミの活動で障害児とそのお母さんを支えるサロンを運営していたことをきっかけに、子育て支援、特に障害児とその家族の支援にとっても関心を持ちました。現在、子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所で行われている「子ども家庭幸せプロジェクト」の企画・運営などに学生子ども家庭ソーシャルワーカー（学生スタッフ）として携わらせていただいています。少しでもこのような活動が広まっていけばいいなという思いで頑張っています。

将来は特別支援学校の教員になりたい

今は社会福祉士の養成課程を踏まえながら教員課程の内容も勉強しています。将来は特別支援学校の教員になりたいと思っています。大学で福祉という特別支援教育において基盤となることを多く学んだので、それらを活かしながら障害をもつ子どもたちが当たり前前に教育に触れ、笑顔で生活ができるよう、自分にできることに一生懸命に励んでいきたいです。



社会福祉学部 社会福祉学科 4年

長崎日本大学高等学校 普通科卒業

福祉関連の学部と教員養成課程をもつ学部の両方に興味があり悩んでいた時、福祉の基礎を学びながら教員免許がとれるという自分の目指すものが詰まっていた山口県立大学の資料を見て、受験を決意。

